

災害から家と家族を守るため まずは診断からはじめよう

(社)福岡市耐震推進協議会 会長

(株)住環境工房らしんばん 代表

白水 秀一さん



住み慣れた愛着のあるマイホームも、時と共に当然傷みが進んでくる。地震などの大きな災害が起きたとき、我が家は簡単に倒壊しないと言い切れるだろうか？安心できる暮らしのためにやるべきことは何か。耐震補強の重要性について「福岡市耐震推進協議会」に話を伺った。

近

年、頻度を増してきた地震による家屋の被害。私たちはどのような対策をしておくべきなのだろうか。

「全国に約二〇〇〇あるといわれる活断層のうち、地震発生確率がトップ一〇に入る警固断層。この断層がひき起す地震では、震度六以上の揺れが来ると予想されています。この地震で倒壊する危険性が高い住宅は、福岡市だけでも六五、〇〇〇戸ほどあると言われています。これは、建築基準法の改正(新耐震基準)が行われた昭和五十六年より以前に建てられ、この基準を満たす耐震補強工事がなされていない木造戸建住宅のことを指します。これらの住宅は、建てられた時の耐震基準が低いだけではなく、老朽化も進んでいるので、大きな地震の際には耐えきれないという危険性が高いのです。しかし実際に住んでいる方はその実感がなく、耐震性の必要性を意識されていない場合が多いんです。お風呂やキッチンなど毎日使う設備機器の劣化や、目に見える外壁や内装材の傷みなどと異なり、建物の構造は普段の生活では、目にすることもなく一般の人には分かりづらいものですかね」

そう語るのは、福岡市耐震推進協議会会長の白水秀一さん。長年、リフ



耐震補強の重要性を一般に伝えるセミナーや、施工業者の意識向上を促す勉強会なども積極的に開催している福岡市耐震推進協議会

フォームや耐震補強に携わってきた白水さんは、三年前に福岡市からの要請を受け、同協議会を立ち上げた。現在、福岡市内五社の建設会社に加え、耐震診断・補強工事などに力を入れている。

「まず第一歩は、自分が住む家を目に見えない部分も含めてきちんと理解すること。そのために大切なのが、住宅の耐震診断。私たちが行っている耐震診断では、床下に潜ったり天井裏に登ったり、隅々まで確認を行います。壁の強度や壁のバランス(配置)について、また、壁のひび割れやシロアリの被害などの老朽化のチェックを行い、効果的な補強方法を的確に提案します」

現状を知らなければ、必要な対策も分からない。ただ闇雲に天井裏や床下に金具を取り付けたりしたとしても無意味。壁を強くし老朽化の改

善を行わなければ、実際に地震に遭遇した時に大切な家を守ることはできないと、白水さんは指摘する。

「耐震診断は、家の健康診断のようなもの。正しい処方箋をもって信頼できる建築会社に補強工事を依頼しなければ、安心できる暮らしを守ることはできないんです。そのためにも、まずは耐震診断を受けてほしいと思います。また、リフォームの時は耐震補強の絶好のチャンス！リフォームの計画の前にも耐震診断されることをおすすめします」



左写真:大きくひび割れた基礎は、鉄筋を縫い付けて新たな基礎で覆い補強する
中央写真:補強する壁の柱・土台・梁をしっかり固定し、耐震ボードを張るための下地組みを行う
右写真:下地組みの後、耐震ボードを施工する。その後、元の壁の仕上げ材(壁紙や塗り壁)を施工し、完成

問い合わせ

(社)福岡市耐震推進協議会 事務局
福岡市中央区今川2-3-2
092-724-7744
10:00 ~ 17:00(平日)
www1.bbq.jp/fukuokataishin/
耐震診断(1棟 3,000円)は常時受付中